

## 2. 健康・スポーツ活動

### 13. 障害者乗馬の普及と「日本一たのしいやまがた馬まつり」

| 活動分野 | 健康・スポーツ | 活動に参加している障害者   |   |    |     |
|------|---------|----------------|---|----|-----|
|      |         | 障害種別           | 身体・知的・精神・発達   | 年齢 | 全年齢 |
| 活動地域 | 山形県     | 実施主体<br>【任意団体】 | 名 称:山形県乗馬療法研究会<br>住 所:山形県東置賜郡川西町下小松 2045 - 20 総合コロニー希望が丘あさひ寮<br>電 話:0238-42-4164 fax:0238-42-4165 |    |     |

#### 活動概要

山形県では、平成8年から知的障害者福祉施設「総合コロニー希望が丘」にて、馬との触れ合いを通して心の解放と身体の機能回復を目指す乗馬療法の実践を始めた。乗馬療法とは、スタッフやボランティアらが励ましの声掛けや落馬を防ぐためにサポートしながら、障害のある人が馬に乗り楽しむことで、心身に良い効果が得られるというものである。

また、施設利用者のみならず、在宅で様々な障害のある人や障害者団体も受け入れているほか、幼稚園、小・中学校、公民館等を対象として体験乗馬を実施しており、多くの人が施設に遊びにやってくる。その際には、施設を利用する知的障害のある人が乗馬をサポートするなどして地域の人たちと接し、大きな刺激を受けている。

こうした乗馬療法の効果を伝えようと、「日本一たのしいやまがた馬まつり」を開催している。障害の有無に関わらず、乗馬等を一緒に楽しみながら過ごすことでお互いの理解を深めるきっかけとなっている。

このまつりを主催の実行委員会と共に開催する「山形県乗馬療法研究会」は、県内関係団体とのネットワーク化を図るために設立され、まつりのほか、インストラクターを講師に招いての実践セミナー、講習会を開催するとともに、ニュースレターによる情報の発信など、障害者乗馬の啓蒙、普及に取り組んでいる。



#### 活動を始めた背景・経緯

当初、施設利用者の支援プログラムとして乗馬療法を導入した。その成果、反響は施設、障害種別を越え、地域へと広がっていった。障害者乗馬に対して消極的だった乗馬クラブも次第に活動に着目、出張乗馬や障害のある人の受入れへと変化を見せた。障害特性の理解、安全・快適な実践体制、個別プログラムの必要性等が次第に認識されるようになってきた。

そして、乗馬療法の効果を多くの人に伝えるとともに、馬との触れ合いを楽しんでもらおうと、2007年から毎年、「馬まつり」を開催している。

#### 活動目的

1. 乗馬療法の普及啓発に努め、障害のある人の自己実現に結び付ける。
2. 地域との交流を図り、障害者福祉の向上及び社会参加の推進に寄与する。
3. 乗馬療法の実践及び調査・研究
4. 関係資料の収集及びニュースレターによる情報提供
5. 移動乗馬教室及び研修セミナーの開催

## 活動の成果又は効果

「馬まつり」には、予想を上回る多くの人々が参加し、活動に対する期待が表れている。また、障害者乗馬実践施設を紹介する「やまがた馬マップ」作成に取り組み、取材活動を通して、新たなネットワークを網羅するとともに、県内四圏域に障害者乗馬の活動拠点施設を設けることができた。

## 活動を継続する上で工夫した点

会員向けにニュースレターの定期発行を行っている。また、会報発行やホームページの開設等広く情報発信に努めている。

## 活動を継続する上での課題

1. 障害者乗馬に対する認知度、受入れ側の体制、スタッフの確保、ボランティアの育成等が当面の課題である。
2. 圏域によって、取組みにまだまだ温度差がある。
3. 乗馬療法に適した馬の確保が難しい。
4. プログラム設定、記録の重要性など、障害特性に応じた専門性が求められている。
5. 興味を示す人は増えているものの、新規会員の獲得には至っていない。



## 共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

1. インストラクターによる、実践を含めた障害者乗馬に関する講習会の開催。
2. 乗馬スタッフのスキルアップを目的にしたセミナーの開催。
3. 「馬マップ」を活用しての情報提供の拡大。
4. 移動乗馬教室の開催による乗馬体験の場を提供。
5. ヘルパー（サイドウォーカー）講習会を開催し、障害特性の理解、支援のあり方を学ぶ機会を提供。



## 実施体制

乗馬療法実践に当たってはアテンダント(チーム)を組む(インストラクター(責任者)、リーダー(引き馬担当、サイドウォーカー2名で一組))。

・山形県乗馬療法研究会(設立 平成 13 年6月 27 日)

会員数 47 名(21 年 12 月末現在 年会費 1,000 円)

会員構成: 医師、理学療法士、大学准教授、障害者団体(自閉症協会親の会等)、福祉施設職員、乗馬クラブ、NPO 法人、一般市民

## キーワード

動物介在活動、コンパニオン・アニマル

## 14. 神奈川県障害者スポーツフェスティバル

| 活動分野 | 健康・スポーツ | 活動に参加している障害者  |  |    |     |
|------|---------|---------------|--|----|-----|
|      |         | 障害種別          | 身体・知的・精神・発達・その他  | 年齢 | 全年齢 |
| 活動地域 | 神奈川県    | 実施主体<br>【自治体】 | 名 称: 神奈川県障害者社会参加推進センター<br>住 所: 神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2 神奈川県社会福祉会館内<br>電 話: 045-311-8744      fax: 045-316-6860<br>URL : <a href="http://www32.ocn.ne.jp/~kanagawa_sinsho/sub90.htm">http://www32.ocn.ne.jp/~kanagawa_sinsho/sub90.htm</a> |    |     |

### 活動概要

障害のある人もない人も参加できる障害者向けスポーツの紹介を行い、実際に障害者向けスポーツを体験してもらう。また、体力測定も実施し、その人に合った運動を楽しんでもらう。

障害のある人にとって、スポーツ体験が健康維持や社会参加のきっかけづくり、また、障害のある人同士の交流の場となることを目指している。

また、障害のない人も参加することができ、様々な障害者スポーツを気軽に体験しながら、関心を深めてもらうとともに、障害のある人もない人も、共にスポーツを楽しむことができるイベントとなっている。

以下、実施するスポーツ等。

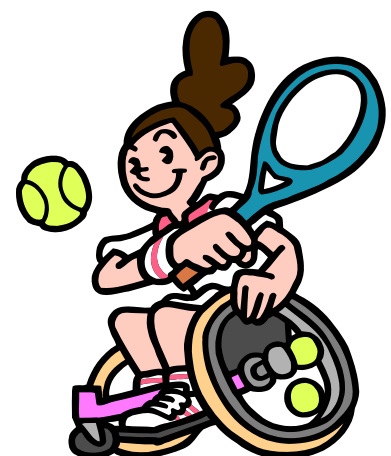
〔 ペタンク・ユニカール・サウンドテーブルテニス・スポーツ吹矢  
 フライングディスク・車椅子バスケットボール・ローリングバレーボール  
 陸上特殊競技(50m音競走、障害急歩、スラローム)・ダンス・水球など 〕

### 活動を始めた背景・経緯

県障害者スポーツ大会への参加が難しい人、競技種目がなくなってしまった人、イベントスポーツ大会にない障害区分の人、レクリエーションを楽しみたい人等幅広い人にスポーツを楽しんでもらうために事業を計画した。

### 活動目的

- ・障害のある人がスポーツを通し、健康維持や社会参加及び障害ある人同士の交流をする一助となること。
- ・障害者スポーツの体験や普及により、県民の障害者スポーツの関心を深めること。



## 活動の成果又は効果

本事業は、今年で2回目を迎えるが、1回目は約250人が参加し、2回目も約300人が参加している。記録を競い合うスポーツ大会とは異なり、これまで体験したことのなかったスポーツの体験などにより、障害の有無にかかわらず参加者が楽しめた。

## 活動を継続する上で工夫した点

- ・ポスターやチラシで広報を行い、多くの方に参加してもらうようにした。
- ・さまざまな障害者向けスポーツを体験してもらうために、今年は種目を増やした。
- ・それぞれの種目ごとに専門の講師が指導を行い、また、用具は全て揃え、誰でも気軽に参加することができるようにした。



## 活動を継続する上での課題

- ・ボランティアや障害者スポーツ指導者等の協力なしには実施できない事業であり、彼らとの一層の連携を図る必要がある。
- ・重複障害者への配慮。
- ・会場の確保。

## 共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

文化芸術活動を中心とした余暇活動について、障害のある人とない人が分け隔てなく、一般の習い事教室や市民サークル等で一緒に活動ができるような環境づくり。

## 実施体制

主催：神奈川県障害者社会参加推進センター（神奈川県委託事業）

協力：神奈川県ベタंक協会・神奈川県ユニカール協会・神奈川県サウンドテニス協会・日本スポーツ吹矢協会・かながわ障害者フライングディスク協会・神奈川県障害者スポーツ指導者協議会・神奈川県車椅子バスケットボール実行委員会・神奈川県ローリングバレーボール協会・神奈川県大学附属中高等学校

## キーワード

スポーツ、レクリエーション、体験

## 15. 名古屋シティハンディマラソン

| 活動分野 | 健康・スポーツ     | 活動に参加している障害者 |  |    |     |
|------|-------------|--------------|--|----|-----|
|      |             | 障害種別         | 身体・知的・精神・発達・リウマチ等  | 年齢 | 全年齢 |
| 活動地域 | 愛知県<br>名古屋市 | 実施主体         | 名称:名古屋市健康福祉局障害福祉部障害企画課<br>住所:愛知県名古屋市中区三の丸3丁目1番1号<br>電話:052-972-2585 fax:052-951-3999 |    |     |

### 活動概要

名古屋市都心の久屋大通り公園周辺の交通を規制し、障害のある人もない人もともに、障害の種別を超えて走るマラソンである。日ごろスポーツをする機会に恵まれない人、重い障害をもつ人たちとボランティア、およそ1,000人が、マラソンを通じて相互理解と友情を深めるとともに『完全参加と平等』の実現に向け、市民の声援を受けながら1周800メートルのコースを、手動車いすや電動車いすなど4つのグループに分かれて思い切り走る。

車いすの人、介助者と一緒に走る人、競技志向の本格派車いすマラソンランナー、仮装で勝負の人、アジア各国からの障害のある参加者等々子どもからお年寄りまで様々な人が、それぞれのスタイルで楽しみながら交流の輪を広げている。

また、第1回より毎年、名古屋市とアジアの障害のある人の架け橋として、東南アジアのタイ・フィリピン・バングラディッシュと韓国より障害のある人を招待し、ともに友情を分かち合いながら国際交流を図っている。



### 活動を始めた背景・経緯

1981年の国際障害者年を契機とし、障害のある人の社会参加を促すとともに、障害について広く市民各層への啓発を行い、理解促進を図るため、1985年より始まった。

### 活動目的

障害のある人に対する正しい認識の向上を図るとともに、市民の障害者問題に対する理解と認識を一層高めることを目的としている。

また、障害のある人とない人がともにマラソンを通じて相互理解と友情を深め、「完全参加と平等」の実現に資することを目的としている。

## 活動の成果又は効果

大会の運営に当たっては、多くのボランティアや企業に手伝ってもらっており、そうした人たちも含め大会に参加した障害のある人たちとない人たちのふれあいを図るとともに、障害に対する理解を深めることに一定の成果をあげている。

## 活動を継続する上で工夫した点

大会の企画運営に当たり、障害者団体に参加してもらっている。また、市内の企業やボランティアにも参加を呼びかけ、当日は、多数のボランティアに運営を手伝ってもらい、大会を盛り上げてもらっている。

障害のある人が参加しやすいように、参加者の障害内容により種目、距離等のクラスを分けて実施している。また、障害のない人の参加種目も設けている。



## 活動を継続する上での課題

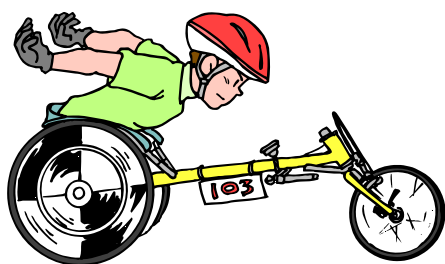
少しでも多くの人に会場に来てもらうために、効果的なPR方法が課題となっている。

## 実施体制

11の障害者団体を中心に、ボランティアや企業の支援を受けて実施。

## キーワード

完全参加と平等



## 16. 車椅子バスケットボール体験教室(国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会)

| 活動分野 | 健康・スポーツ | 活動に参加している障害者  |  |    |     |
|------|---------|---------------|--|----|-----|
|      |         | 障害種別          | 身体   | 年齢 | 全年齢 |
| 活動地域 | 大阪府大阪市  | 実施主体<br>【自治体】 | 名 称:大阪市健康福祉局障害者施策部障害福祉企画担当<br>住 所:大阪府大阪市北区中ノ島1-3-20<br>電 話:06-6208-7994 fax:06-6202-6962<br>URL :http://www18.ocn.ne.jp/~osakacup/index.html |    |     |

### 活動概要

(財)自治総合センター、日本車椅子バスケットボール連盟と共催で、毎年2月に市中央体育館で国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会を開催(2010年参加国 アメリカ合衆国、オーストラリア、カナダ、日本)。

市民の障害に対する理解を促進するため、次の通り、多数の市民の観戦、体験に努めている。

- ・小・中・高校生を観戦に招待
- ・事前申込みの学校を対象に会場アリーナで車椅子バスケットボール体験教室
- ・観客を対象に車椅子でのフリースロー体験
- ・会場内に車椅子体験コーナーや障害のある人のスポーツ競技用具等を展示するコーナーを設置
- ・各国チームが学校訪問(児童・生徒に車椅子バスケットボール体験授業)
- ・各国選手による肢体不自由児へのジュニアレッスン



### 活動を始めた背景・経緯

障害のある人のスポーツの振興及び社会参加促進のために、関心のない市民にも分かりやすくアピールするものとして、世界的に注目を浴びており、なおかつ視覚的にも激しいスポーツである車椅子バスケットボールの国際大会を平成14年度から開催している。

開催目的に沿って、当初より各国選手の学校訪問や、選手と市民が交流する「車椅子バスケットボール体験教室」を行っている。

### 活動目的

障害のある人のスポーツの普及・発展を目指すとともに、国際交流に資するため、世界の強豪女子チームが参加する車椅子バスケットボール競技大会を開催する。

また、広く市民や学校などに、応援の参加を呼びかけるとともに、児童・生徒と各国選手団との交流、車椅子バスケットボールの体験等を通じて、国際親善と障害のある人に対する理解の高揚を図る。



## 活動の成果又は効果

- ・観客総数12,000人(会期3日間)  
車椅子バスケットボール体験教室参加者160人、フリースロー体験参加者300人程度、学校訪問4校、肢体不自由児へのジュニアレッスン参加者14人  
新聞掲載10回、広報誌・雑誌掲載11回、TV放送3回、ラジオ放送2回、市営地下鉄全駅にポスター掲示(以上、平成20年度実績)
- ・観戦した生徒等からの感想文のほか、「心の輪」募集作文・ポスターや地域の啓発活動で、車椅子バスケットボールが共生社会の観点から採り上げられ浸透してきている。

## 活動を継続する上で工夫した点

円滑な競技・大会運営を前提として、市民の障害に対する理解を促進するため、多数の市民の参加を得るよう関係者が一丸となって努めている。

財政事情が厳しい中、宝くじの普及広報事業費や企業協賛の獲得に努めている。

開催後も報告書、HP、雑誌掲載等の広報活動により啓発に努めている。

## 活動を継続する上での課題

財源の確保

## 共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

厳しい財政状況下で、新規事業よりも既存事業及びその拡充に努力した方が費用効果が高いと考えられるので、各種事業の参加者数の増加や事前・事後の広報の充実に精力を傾注している。

## 実施体制

大阪市(委託費の支出、各種広報関係、協力・協賛依頼、予算折衝)、(財)自治総合センター(宝くじの普及広報事業費)、日本車椅子バスケットボール連盟(外国選手団の招聘、競技会への国際審判員派遣)、大阪市障害者福祉・スポーツ協会(主管者として、実行委員会事務局、連絡調整、渉外、観客動員、普及啓発、広報・報道、大会運営、外国選手団の招聘実務等全般)、大会実行委員会(関係者で構成し、大会の準備・企画・運営などを協議、決定)。

## キーワード

車椅子バスケットボール、交流、国際交流

## その他

障害のある人や高齢者が参加し共生する社会環境を築くことが窮極的な課題であるが、そのためには、「障害」を理解することが必要となる。その理解に最も有効なのが、障害のある人たちのスポーツを観て、失った機能があるにもかかわらず、残った機能を最大限に活かすことで可能性をどんどん広げていることを実感してもらうことである。



## 17. 兵庫タンデムサイクリングを楽しむ会

| 活動分野 | 健康・スポーツ | 活動に参加している障害者   |  |        |
|------|---------|----------------|--|--------|
|      |         | 障害種別           | 身体・知的  | 年齢     |
| 活動地域 | 兵庫県     | 実施主体<br>【任意団体】 | 名 称:兵庫県障害者タンデムサイクリング協会<br>住 所:兵庫県尼崎市西本町7 - 312<br>電 話:06-6411-9621      fax:06-6411-9621 | 18 歳以上 |

### 活動概要

毎年秋に西宮市武庫川河川敷サイクリングロードで、視覚障害のある人を始めとする自転車に一人では乗ることのできない人たちを、タンデム自転車の後ろに乗せサイクリングを楽しむ「兵庫タンデムサイクリングを楽しむ会」を開催している。

タンデム自転車とは、二人分のハンドル・ペダル・サドルがある二人乗り自転車のことで、視覚障害を始めとする障害のある人と障害のないパイロットがペアを組んで運転し楽しむことができる。

「楽しむ会」は、日本最大規模のタンデム自転車サイクリング大会で、毎回、関西地区を中心に多くの視覚障害等のある人たちが参加し、また、会の運営を手伝うために、自転車愛好家を始めとして全国から多くのボランティアが集う。

当日は、障害のないボランティアと視覚障害等のある人がペアを組んでタンデム自転車に乗り、サイクリングを楽しむ。また、会場には、サイクリングを一通り終えた参加者のために、焼きそばなども用意されており、障害のある人とない人が色々な場面で交流を広げる。

「楽しむ会」を主催する兵庫県障害者タンデムサイクリング協会は、タンデム自転車の普及と安全面の啓発に取り組むことにより、障害のある人に自転車で風を切って走る爽快感や野外活動の楽しさを伝え、体力増進・交流の機会を提供するとともに、障害のない人の障害や障害者スポーツに対する理解・参加促進を図っている。

協会では、「楽しむ会」のほか、自治体のイベントなどでも所有するタンデム自転車を貸し出し、試乗会を実施している。また、地域住民へタンデム自転車を無料で貸し出したり、安全な乗り方の指導を行うなどタンデム自転車の普及に力を注いでいる。



### 活動を始めた背景・経緯

県内の視覚障害のある人や自転車愛好家らが、視覚障害のある人を始めとする自転車に一人では乗ることのできない人たちに、自転車で風を切って走る気持ちよさを感じてもらおうと、1988年より始めた。

その後、文化の一つであるスポーツを、障害のある人とない人が共に地域で気軽に楽しむことができる環境を作るため、障害者スポーツの中でも野外で楽しめるタンデム自転車の普及を目指し、「楽しむ会」を主催していたメンバーで1997年4月に協会を発足した。

## 活動目的

- ・視覚障害のある人を始めとする自転車に一人では乗ることのできない人たちに、自転車で風を切って走る気持ちよさを感じてもらい、野外活動の楽しさを伝える。
- ・障害のある人の体力増進
- ・一般市民の障害者スポーツへの理解・協力の獲得
- ・タンデム自転車の全国普及



## 活動の成果又は効果

- ・「楽しむ会」が第10回の節目を迎えた2007年に、会の中心メンバーが県警などにタンデム自転車の公道での使用を要望したところ、会を重ねてきた実績などが認められて、県公安委員会規則が改正され、兵庫県では2008年7月1日より公道を走れるようになった。タンデム自転車で公道を走れるのは、現在、山形県、長野県、兵庫県の3県のみである。
- ・障害のある人の社会参加促進
- ・障害のある人とない人の交流・お互いの理解促進
- ・障害のある人に、自転車で風を切って走る爽快感や野外活動の楽しさを体験する機会を提供

## 活動を継続する上で工夫した点

- ・地域の人たちの参加・支援を得るため、公開性のある活動を実施
- ・活動PRを各新聞社・テレビ局に依頼
- ・参加者の募集を各県障害者団体に周知

## 活動を継続する上での課題

各協力団体への補助金申請や、大会会場でのバザー開催などにより資金確保に努めているが、運営資金や特殊自転車であるタンデム自転車の購入資金が十分でない。

## 共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

- ・タンデム自転車サイクリングをマラソン大会と共催
- ・タンデム自転車運転講習会開催
- ・道路交通法講習会(自転車走行限定)開催

## 実施体制

スタッフ数：約150人

協力団体：尼崎サイクリング協会・京都サイクリング協会・兵庫県障害者伴走者協会・日本サイクリング協会(東京)・ボランティア協会(神戸・西宮・尼崎)・兵庫県障害者スポーツ協会・(財)木口兵庫地域振興財団・車両競技公益資金記念財団

## キーワード

タンデム自転車、2人4脚、障害者スポーツ